福岡県散乱ごみ対策事例集　資料編

資料集について

自治体等で実際に取り組まれている散乱ごみ対策の個別事例を紹介します。各事例については、事例集本編における各種アプローチ手段、及び考えられる対策メニューでカテゴリー分けしています。

カテゴリー

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／散乱させない／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／ごみ箱／清掃活動

■個票リスト

No.	内　容	取組内容								頁
		看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動	
1	カラスにごみを荒らされないための対策の紹介（愛知県名古屋市）						○			P3
2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣゴミのポイ捨て対策について（静岡国道事務所など）	○		○		○			○	P4
3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」（京都府亀岡市）	○				○		○	○	P5
4	行動経済学のナッジを使ったカラス対策（株式会社 CrowLab）	○					○			P6
5	茨城県内における不法投棄対策（茨城県）					○			○	P7
6	プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言（大阪府枚方市）	○							○	P8
7	「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験（岡山後楽館高等学校、岡山市）							○		P9
8	IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT（奈良県生駒市）								○	P10

No.	内 容	取組内容								頁
		看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動	
9	アダプト・プログラムの事例紹介 （公益社団法人食品容器環境美化協会）								○	P11
10	廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結 （茨城県（石岡市、他３市町）					○				P12
11	まちかど花壇 （神奈川県横浜市鶴見区）		○							P13
12	街角花いっぱいボランティアグループ （千葉県富岡市）		○							P14
13	浅草地区における持続可能な観光地づくりについて （東京都台東区）								○	P15
14	おねがい 用水や川に刈草を流さないで！ （富山県）			○						P16
15	河川ごみ等回収促進事業 （おかやま河川ごみ一掃大作戦） （岡山県）			○					○	P17
16	観光客専用ごみ袋 （北海道羅臼町）				○					P18
17	イベント用ごみ箱等の無料貸し出し （埼玉県川口市）							○		P19
18	イベントごみ減量マニュアル （千葉県松戸市）							○		P20
19	自販機横"新機能リサイクルボックス"の新たな形での導入促進に向けた実証事業 （広島県など）							○		P21
20	海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業 （大阪府など）							○		P22
21	カラス対策　ごみ容器・カラスネットなどの使用 （東京都杉並区）						○			P23

※各事例に記載している実施年度は 2024 年度時点の情報になります。

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／**散乱させない**／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／**害獣対策**／ごみ箱／清掃活動

No. 1	**カラスにごみを荒らされないための対策の紹介**
関係自治体等	愛知県　名古屋市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

収集袋で排出されたごみを突いて中身を散乱させてしまうカラスについて、その生態や被害防止の方法、家庭で取り組むことのできるカラス対策のアイデアなど HP 上で広く紹介している。生ごみの減量や堆肥化、正しい防鳥ネットの使い方については、更に詳しく解説したページのリンクも掲載。カラスによるごみ散乱対策チラシもダウンロード可能であり、日本語版のほか 7 言語でのチラシも掲載するなど、幅広い属性に向けた啓発にも取り組んでいる。

●実施内容、取組の結果など

カラスにごみを荒らされないための対策などについて、以下の内容等を HP 上で紹介。

◇カラスの生態について

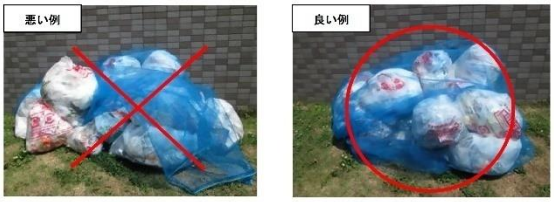
近年、都会でハシブトガラスが増加している。主な要因として、高栄養価の生ごみの摂取による繁殖率の高まりがあり、雛の数の増加に繋がっている。

◇カラスによる被害を防止方法について

①生ごみを減らす、②生ごみを隠して排出する。③防鳥ネットを使用する、④ごみは収集日当日の朝に出す　といった、カラスにごみ袋の中身を散乱される被害を防止するための手立てを紹介。どのようなごみの出し方をすると被害を受けやすいかが分かりやすくまとめられている。

生ごみの減量と防鳥ネットについては詳しく解説したページへリンクで飛べるようになっており、段ボールコンポストの作り方や堆肥づくり講座の案内、助成制度のほか、防鳥ネットに適した網目のサイズやネットの大きさ、効果的な防鳥ネットのかけ方などの情報に簡単にアクセスできるようになっている。

▲家庭における生ごみの堆肥化方法の紹介



ネットからごみがはみ出している。
すき間からネットの中にカラスが入り込める。

ネットの中にごみが全て入っている。
ネットにカラスが入り込むすき間がない。

▲防鳥ネットの正しい使用方法の紹介

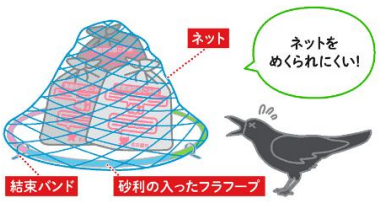
◇家庭で取り組めるカラス対策について

家庭で取り組めるカラスによるごみ散乱対策のアイデアを市民から募集し HP 上に掲載。アイデアは後述のごみ散乱対策チラシにも掲載している。

◇対策用チラシ

HP では各種チラシがダウンロード可能。カラスによるごみ散乱対策チラシでは、防鳥ネットの活用や生ごみが見えないような捨て方、ごみ出しのタイミングなどについて啓発している。

また、カラス被害対策チラシについては、日本語版の他に 7 言語での外国語版も掲載している。



▲家庭で取り組めるカラス対策の紹介

▲外国語版カラス被害対策ちらしの紹介

●その他

出典：名古屋市 HP（https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/5-6-28-0-0-0-0-0-0-0.html）

アプローチ：**ポイ捨てさせない** / 不法投棄させない / 散乱させない / **ごみを拾う**

取組内容：**看板** / プランター / **除草** / ごみ袋 / **監視強化** / 害獣対策 / ごみ箱 / **清掃活動**

No. 2	**若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策**
関係自治体等	静岡国道事務所　など
実施年度等	2018 年度～

【 取組の概要 】

静岡県藤枝市の国道 1 号谷稲葉 IC における長年にわたるポイ捨て問題に対応するため、静岡国道事務所の若手職員がプロジェクトチームを結成。ごみの種類や捨てられる場所を調査し、啓発看板や防草マットの設置などを実施した。2019 年 1 月には藤枝警察署・藤枝市と合同パトロールを開始し、さまざまな対策を展開。取り組みの詳細と成果を報告しているほか、ごみを捨てられた箇所の傾向を分析し、「谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策」を策定している。

●実施内容、取組の結果など

谷稲葉 IC は藤沢市の玄関口に位置しており、近隣市街地へのアクセスもよいインターチェンジである。一方、同 IC はごみのポイ捨ても多いポイントであり、景観形成の観点などから対策の必要があった。

静岡国道事務所では、2019 年 1 月の合同パトロール及び合同啓発活動をスタートとして、静岡国道事務所の採用 1 ～ 4 年目の若手職員によるプロジェクトチームを結成し、谷稲葉ＩＣのごみのポイ捨て状況調査。ごみを捨てられた箇所の傾向を分析の上、「谷稲葉ＩＣのゴミのポイ捨て対策」を策定。藤枝警察署・藤枝市と連携の上、対策を実施した。現状の把握に係る調査や対策検討、関係者と連携した実施などを効果的かつ効率的に進めている。

«2018 年度の取り組みの流れ»

時期	内容	
2018.9	若手プロジェクトチーム発足	
	第 1 回打合せ	試行として乱立する既存の啓発看板の撤去、除草作業の実施を決定
2018.9～10	第 1 回調査	対策試行前のごみの投棄箇所およびごみの発生源及び種類を調査
2018.10	第 2 回調査	既存の啓発看板の撤去および除草作業の実施後、ごみの投棄箇所およびごみの発生源及び種類を調査
2018.11	第 2 回打合せ	第 1 回及び第 2 回調査の結果を踏まえて、改めて傾向と課題を抽出
	傾向と課題を踏まえて、以下の対策について内容を検討。 〇ごみの投棄傾向を踏まえた対策　〇除草効果を維持する対策 〇ボックス内及び前後区間の景観向上に向けた対策　〇ドライバー視点からの対策	
2018.11	三者会議	静岡国道事務所、藤枝警察署、藤枝市の三者で会議。策定した「谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策」を提示
2019.1	合同パトロール及び 合同啓発活動実施	対策内容 〇看板の設置　〇合同パトロール　〇合同啓発活動　〇ハード的対策の実施　等
2019.1～2	第 3 回調査	1 月対策実施後のポイ捨て状況を調査

第 1 回調査

第 2 回調査

合同パトロール

静岡国道事務所ＨＰへの掲載

2018 年度の取り組みでは、第 1 回調査時から第 3 回調査時でごみ総数は約 6 割減少と効果が見られた。一方、目標とするごみ“０”を目指し、継続的に取り組みを実施する必要があるとして、続く 2019 年度や 2022 年度にも対策を実施している。なお、2022 年の啓発活動等では、静岡国道事務所とボランティア・サポート・プログラム協定を締結している静岡県トラック協会中部支部も取り組みに加わっている。

●その他

出典：中部地方整備局　静岡国道事務所（https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukoku/sonota/yainabaIC.html）
若手職員による国道 1 号谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策について
（https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/2019kannai/pdf/re07.pdf）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
関係自治体等	京都府　亀岡市
実施年度等	2022 年度～2023 年度

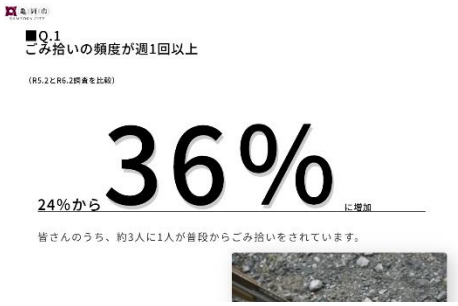
【 取組の概要 】

亀岡市では、ソフトバンク株式会社と「環境および教育事業連携に関する協定」を締結しており、その中での共同研究として、ポイ捨てしにくい環境構築を目的とした「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」に取り組み、LINE サービスを通じ「ごみ投稿サービス」を運用。2022 年 4 月から 2024 年 3 月までの 2 年間で約 50,000 個（投稿数約 20,000 件）のポイ捨てごみデータを収集し、特設ページにて投稿データや個人投稿数などを公開している。投稿が多いポイントにおいては、不法投棄監視パトロールの重点実施や啓発看板・IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置を実施するなど、データを効果的な対策に活用している。

●実施内容、取組の結果など

亀岡市とソフトバンク株式会社が締結している「環境および教育事業連携に関する協定」の中で、共同研究として、ポイ捨てしにくい環境構築を目的とした「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」に取り組み、LINE サービスを通じ「ごみ投稿サービス」を運用。

2022 年 4 月から 2024 年 3 月までの 2 年間で約 50,000 個（投稿数約 20,000 件）のポイ捨てごみデータを収集し、特設ページにて投稿データや個人投稿数、併せて実施したごみ拾いに関する市民調査の結果など、市のポイ捨てごみの現状について情報を公開しているほか、投稿データについては、後述するような不法投棄監視パトロールの重点実施や啓発看板の設置、IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置におけるポイントの設定などに活用している。



▲特設ページでの調査結果の公開

◇重点パトロール、プロジェクト専用啓発看板の設置

投稿が多いポイントには不法投棄監視パトロールの重点実施、啓発看板の設置など対策を実施。

◇IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置

投稿データを分析した結果、比較的投稿数が多く、人通りが多い JR 亀岡駅の北口と南口に IoT ごみ箱「Smago」を設置。エコウォークなど清掃活動で回収したポイ捨てごみの処理に活用するよう市民に呼び掛けている。「Smago」の設置は、亀岡市が西日本で初。

▲各種対策の様子

○IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の機能

（1）ごみが一定量貯まると、約 5 分の 1 に自動で圧縮。
（2）リアルタイムにごみの量を管理・分析。
（3）ソーラーパネルの搭載により、電源が不要で、環境に負担をかけない。

なお、市は 2024 年 4 月に、市の公式 LINE から報告ができるかたちにごみ投稿をリニューアルしている。市の公式 LINE アカウントを友達追加した上で、簡単な操作で見つけたごみの種類や場所などを報告できるサービスになっており、市は利用方法を周知するなど市民への協力を呼び掛けている。

▲IoT ごみ箱「Smago」（亀岡駅北口・南口）

●その他

出典：亀岡市 HP（https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankyou/32708.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 4	**行動経済学のナッジを使ったカラス対策**
関係自治体等	株式会社 CrowLab　（クロウラボ）
実施年度等	―

【 取組の概要 】

カラスによるごみ荒らしが起こる原因は、ネットの掛け方が悪いなど、ごみの出し方に問題があるケースが多いことから、行動経済学において注目されているナッジ理論を活用し、カラスによるごみ嵐を防ぐためにごみの出し方の改善を促す POP を作成。

東京都足立区にて実証実験を実施しており、ナッジの理論を使った POP をごみ集積所に掲示することにより、ごみを出す方が、カラスがごみを荒らしていることを意識する、ごみの管理をしている人が居ることを意識する等により、住民のごみの出し方が改善されたという結果が得られた。

●実施内容

行動経済学において注目されているナッジ理論を活用し、ナッジの専門家と協力してカラスによるごみ荒らしを防ぐためにごみの出し方の改善を促す POP を作成、東京都足立区における実証実験にて、ごみ集積所に掲示した。

POP は、ごみの出し方を人の側に指南する内容で、習慣化している日々のごみ出しを言う行為でいかに注意を引くかに重きを置いて作成。オレンジや青色を使用した目立つ配色とし、人が思わず意識を向ける、目を備えたキャラクターやカラスを配置するなど、認知心理学の知見も活用している。

実証実験では、ごみを出す方が、カラスがごみを荒らしていることを意識する、ごみの管理をしている人が居ることを意識すること等により、住民のごみの出し方が改善されたという結果が得られた。

株式会社 CrowLab では、利用条件を守ることを条件に、希望者へ作成した POP データを配布している。

▲POP の例

●その他

出典：　株式会社 CrowLab（クロウラボ）HP（https://www.crowlab.co.jp/nudge/index.html）
株式会社 CrowLab では、カラス研究で実績のある宇都宮大学と連携し、カラス被害対策関連の事業を行っている。

アプローチ：ポイ捨てさせない／**不法投棄させない**／散乱させない／**ごみを拾う**

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／**監視強化**／害獣対策／ごみ箱／**清掃活動**

No. 5	**茨城県内の不法投棄件数が半減**
関係自治体等	茨城県
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

茨城県では、不法投棄対策として、不法投棄の早期発見・通報体制の確立、事案発生初期からの監視・指導体制充実強化に力点をおいて取り組んでいる。

また、年々悪質・巧妙化している不法投棄事案に対しては、「捨て得は許さない」という方針で、不法投棄行為者、搬入業者、排出事業者、土地提供者に対応している。

●実施内容

茨城県内の不法投棄の新規発生は、2020 年度まで 100 件台で推移しており、中でも、トラックで公道や農地に廃棄物を散発的に投げ捨てる「ゲリラ的不法投棄」が多かった。

県や市町村は、2021 年度から不法投棄の監視を強化。県警 OB などで組織する「不法投棄等機動調査員」の採用、画像が投稿できる通報アプリ導入や情報提供者への報奨金制度の運用の開始、約 450 人体制のボランティアによる監視を実施。

不法投棄の新規発生は、2021 年度から大幅に減少した。

▲不法投棄防止強調月間

«具体的な取組内容»

◇**啓発チラシの作成**……廃棄物の不法投棄、残土の無許可埋立てについての啓発

◇**監視・指導体制の充実強化**

● 不法投棄対策室の設置	本庁廃棄物規制課内に県警からの派遣警視を室長として 30 人体制で設置（2024 年度）
● 不法投棄監視指導班の設置	県内 5 つの県民センター等に、不法投棄監視班を設置
● 産廃に係る立入検査権権限の市町村への付与	迅速な現地調査等を行うため、県内 43 市町村の 324 名に併任発令 廃棄物処理法に基づく立入検査などの権限を付与
● 専門チームによる悪質事案への対応	不法投棄等機動調査員 10 人を雇用し、監視・追跡パトロール活動を強化 悪質事案発生時は当該調査員で「専門チーム」を編成
● 警備会社への不法投棄現場の監視委託	警備会社へ休日夜間の不法投棄現場の監視を委託
● ボランティア撤去事業	今後撤去される見込みが少ない事案などについて、一般社団法人茨城県産業資源循環協会と連携・協力して撤去事業を実施

◇**発見・通報体制の充実強化**

● ボランティア不法投棄監視員の委嘱	約 420 名体制のボランティアによる全県的な監視を実施
● 不法投棄監視協定の締結	監視・通報体制構築のため、早朝・夜間の時間帯又は山間部などで活動している業界団体等と監視協定を締結
● 不法投棄 110 番（フリーダイヤル）による情報収集	不法投棄の通報先としてフリーダイヤルを設定
● 不法投棄防止強調月間の実施	県・警察・市町村・業界等が合同して、各種パトロールなどを実施
● 不法投棄通報アプリによる情報収集	茨城県では、ごみ拾いによる社会貢献活動を SNS で共有するために開発されたアプリ「ピリカ」を茨城県用にカスタマイズ、不法投棄通報アプリとして運用
● 有力情報に対する報奨金制度の運用	産業廃棄物の不法投棄等や残土の不適正処理事案の早期発見に資するため、「不法投棄等情報提供報奨金制度」を運用

●その他

出典： 茨城県 HP

（https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/haitai/fuho/1fuhotokitaisaku/fuhoutokitaisaku.html）

アプローチ：**ポイ捨てさせない**　不法投棄させない　散乱させない　**ごみを拾う**

取組内容：**看板**　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　**清掃活動**

No. 6	**プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言**
関係自治体等	大阪府　枚方市
実施年度等	2019 年度～現行

【 取組の概要 】

枚方市では、市民・市民団体、事業者、行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた 4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進するため、2019 年 6 月 1 日にプラごみダイエット～ポイ捨てゼロを宣言。

SDGs のゴール 14 に「海の豊かさを守ろう」が設定され、国や大阪府・大阪市などをはじめ、様々な団体において、プラスチックごみの削減に向けた取り組みが進められていることから、枚方市としても市民等と連携したさらなる取り組みの充実を図っている。

●実施内容

枚方市では、プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言をとおして、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた４R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進することとしている。これまでの取組内容は以下のとおり。

◇「プラごみダイエット行動宣言」の参加者を募集

- 日々の行動の積み重ねでプラスチックごみを減らすことを目的として、毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす行動を宣言する「プラごみダイエット行動宣言」への参加者を募集（2021 年 1 月～2024 年 3 月末）。
- 参加人数 1 万人を目標とし、2024 年 3 月末まで参加を呼びかけた結果、のべ 10,178 人が宣言に参加し、目標を達成。
- 「ひらかたプラごみダイエット行動宣言」の終了を前に、これまでに実施したプラスチックごみ削減・ポイ捨てゼロの啓発活動に関するアンケート調査。

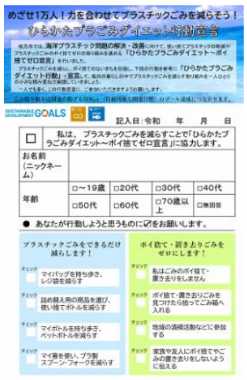
▲プラごみダイエット
～ポイ捨てゼロ宣言

◇「プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」周知ポスターを作成

- 「ひらかたプラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」を広く周知するとともに、海洋プラスチックごみ問題に関して啓発を行うため、大阪府立枚方なぎさ高校美術部の高校生の協力のもと、啓発ポスターを作成。

◇プラごみダイエット生活のアイデア募集

- NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議と連携して、2020 年 7 月から 9 月に「プラごみダイエット生活アイデア募集」を開催。
  応募総数 67 人（子ども 39 人、大人 28 人）
- 「【体験談＆実例募集】プラごみダイエット生活第 2 弾」として、前年に続いて 2021 年 7 月から 9 月にかけてアイデアを募集。
  応募総数 55 人（子ども 30 人、大人 25 人）



▲(左)「プラごみダイエット行動計画」参加者募集
（右)「プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」啓発ポスター

●その他

出典：枚方市 HP（https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000024242.html）

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／**散乱させない**／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／**ごみ箱**／清掃活動

No. 7	**「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験**
関係自治体等	岡山後楽館高等学校、岡山市
実施年度等	2023 年度

【 取組の概要 】

たばこの吸い殻のポイ捨てをなくしたいと考えた岡山市立高校の学生が、学生自ら考え実践する総合学習の活動の中で、「投票式の吸い殻入れ」の設置を提案。その取り組みの趣旨に賛同した民間企業と岡山市の協力により「投票式の吸い殻入れ」を岡山市市街地中心部に設置し、設置前・設置後について吸い殻入れ周辺のポイ捨て改善状況の効果検証を行ったもの。

●実施内容

岡山市立岡山後楽館高等学校（岡山市北区南方）の学生が、学生が自ら考え実践する総合学習の活動として、「投票式の吸い殻入れ」設置前（2023 年 7 月）と設置後（同年 8 月）に、吸い殻入れ周辺の吸い殻のポイ捨て状況を調査し、「投票式の吸い殻入れ」によるポイ捨て状況の変化を検証した。

「投票式の吸い殻入れ」とは、灰皿に二者択一の設問を記載し、ナッジ的なアプローチ（行動経済学）により、つい使いたくなる仕組みを取り入れたもの。吸い殻を自身が選んだ設問箇所に捨てることができる。

▲投票式の吸い殻入れ

«実証実験の概要»

◇事前調査

西川緑道公園の時計台のある東屋（北区富田町）の半径 200m の範囲での吸い殻のポイ捨て状況を調査。

◇事後調査

西川緑道公園の時計台のある東屋（北区富田町）に投票式の吸い殻入れを 1 か月間にわたり設置し、半径 200m の範囲での吸い殻のポイ捨て状況を調査。投票の設問は調査期間の前後半で変更（下記参照）。

① 貰えるとしたらどっちを選ぶ？　A: 10 万円の桃 1 個　B: 1 万円のマスカット 10 房

② 留学生を一日観光スポットに連れていくならどっちを選ぶ？　A: 倉敷美観地区　B: 岡山後楽園

«調査結果»

周辺に落ちていた吸い殻の数				
調査実施日	8/9（水曜日）	8/16（水曜日）	8/24（木曜日）	8/31（木曜日）
吸い殻本数	43	26	35	（201）

▲調査結果（8/31 のみ調査範囲を拡大）

- 調査実施前は、既存の灰皿周辺に吸い殻がたくさん落ちており、灰皿が有効活用されていないように見受けられたが、投票型灰皿の設置後は利用者の協力により、灰皿周辺に落ちている吸い殻の数は設置前の 9 割以上減少。設置場所から半径 20m 以上離れるとポイ捨ての状況は設置前と比べてあまり変化が見られずといった結果であった。
- 他方では、投票型灰皿周辺に放置される吸い殻以外のごみ（缶・ペットボトル・お菓子の袋等）が増加。定期的に清掃活動を行っていると受け取られ、安易にごみを放置しているのではないかということが推察された。

●その他

出典：岡山市 HP（https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000057006.html）

実証実験の実施に当たっては、株式会社コソドが投票型灰皿の提供やアドバイスなどで協力

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う				
取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 8	**IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT**
関係自治体等	奈良県　生駒市
実施年度等	2022 年度

【 取組の概要 】

奈良先端科学技術大学院大学（主催）と日本たばこ産業株式会社奈良支社（協力）が、生駒駅周辺でセンサ装着型トングを使った清掃イベント「IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT」を開催。

センサ装着型トングには、ポイ捨てごみの種別・位置情報収集システムが搭載されており、トングを使って拾われたごみは、すぐに Web 上の地図で種別とエリアが可視化される。

イベント当日には、ごみ拾いの後に web でごみの種類と位置を確認し、参加者同士がデータの活用方法やポイ捨ての抑制方法などについて話し合う場も設けた。

●実施内容

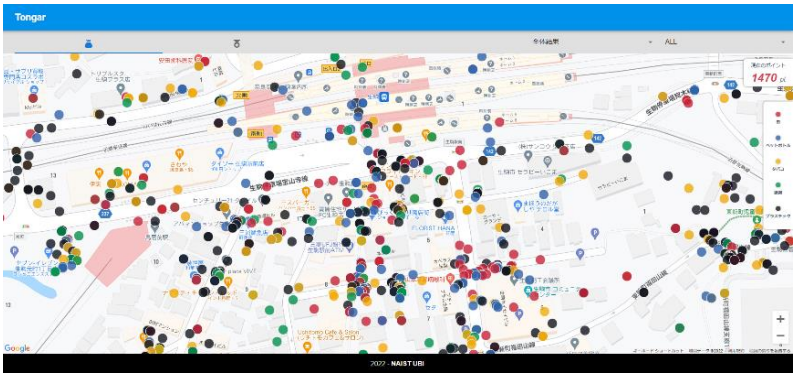
奈良先端科学技術大学院大学では、社会問題であるごみのポイ捨ての効果的な啓発や防止策を講じるためにはごみの種別・位置情報を網羅的に収集することが必要と考え、小型カメラを装着したトングによって拾われたごみの種別認識を位置情報とともに収集するシステムを開発。

当該システムは、センサ装着型トングを用いてごみ拾いをするだけで、自動的に情報を記録することができるもの。

Rethink PROJECT は日本たばこ産業株式会社（JT）がパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称。「Rethink＝視点を変えて、物事を考える」をキーワードに、これまでにない視点や考え方を活かして、パートナーのみなさんと「新しい明日」をともに創りあげていくために、社会課題と向き合うプロジェクトである。

イベントには「生駒市 SDGs 推進事業補助金」が活用されている。

▲イベントの様子



▲ごみの種別・位置のデータ

●その他

出典：生駒市 HP（https://www.city.ikoma.lg.jp/sdgsaction/0000028835.html）

実施グループ：奈良先端科学技術大学院大学（申請主体）、日本たばこ産業株式会社（JT）奈良支社

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／散乱させない／**ごみを拾う**

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／ごみ箱／**清掃活動**

No. 9	**アダプト･プログラムの事例紹介**
関係自治体等	公益社団法人　食品容器環境美化協会
実施年度等	―

【 取組の概要 】

「まち美化 アダプト･プログラム」は市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」である。
一定区画の公共の場所を養子にみたて、市民がわが子のように愛情をもって面倒をみて（＝清掃美化を行い）、行政がこれを支援するもの。市民と行政が互いの役割分担を定め、両者のパートナーシップのもとで美化を進める。
（公財）食品容器環境美化協会では、協会の HP 上にて、様々な自治体におけるアダプト･プログラムの事例を紹介している。

●実施内容

（公財）食品容器環境美化協会では、HP 上でアダプト･プログラム（市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」）の事例を紹介している。

«アダプト･プログラムについて»

「まち美化 アダプト･プログラム」は市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」である。

◇アダプト･プログラムの特徴

- ･市民と行政の協働で行われる
- ･継続的な活動
- ･地域密着型の清掃活動
- ･都道府県／市町村ごとに導入

◇全国のアダプト･プログラムの導入概況（2024 年 3 月末現在）

- ･実施自治体数　：517 自治体
- ･プログラム数　：約 703 プログラム
- ･参加団体数　：58,000 団体以上
- ･活動者数　：約 240 万人

福岡県内では、福岡県、福岡市、北九州市などで 21 のプログラム制度が導入されている

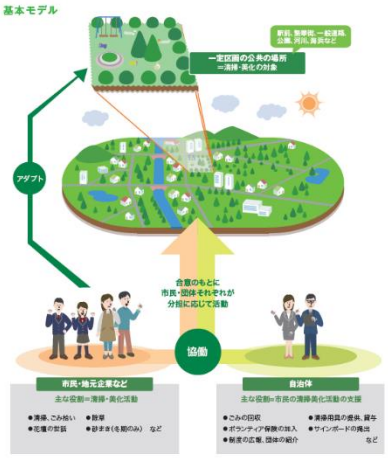
アダプト･プログラムの導入効果として、次のようなものがあげられる。

1．まち美化効果、ポイ捨て防止効果

拾い続けることで、散乱ごみの量自体が減るほか、きれいな場所には捨てづらいこと、アダプト活動を経験した人はポイ捨てしなくなる、などのことから、アダプト･プログラムを導入すると、散乱ごみが減少します。

2．副次的効果

- ･地域の連携が進む
- ･高齢者や障害者の活躍の場が広がる
- ･環境保全につながる



▲アダプト・プログラムの基本モデル

▲アダプト・プログラムの事例紹介

●その他

出典：公益社団法人　食品容器環境美化協会 HP（https://kankyobika.or.jp/adopt/adopt-program/example-report）

アプローチ：ポイ捨てさせない／**不法投棄させない**／散乱させない／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／**監視強化**／害獣対策／ごみ箱／清掃活動

No. 10	**廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結**
関係自治体等	茨城県（石岡市、小美玉市、かすみがうら市、茨城町）
実施年度等	2023 年度

【 取組の概要 】

茨城県の 4 市町（石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町）は、2023 年 5 月に、廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定を締結。

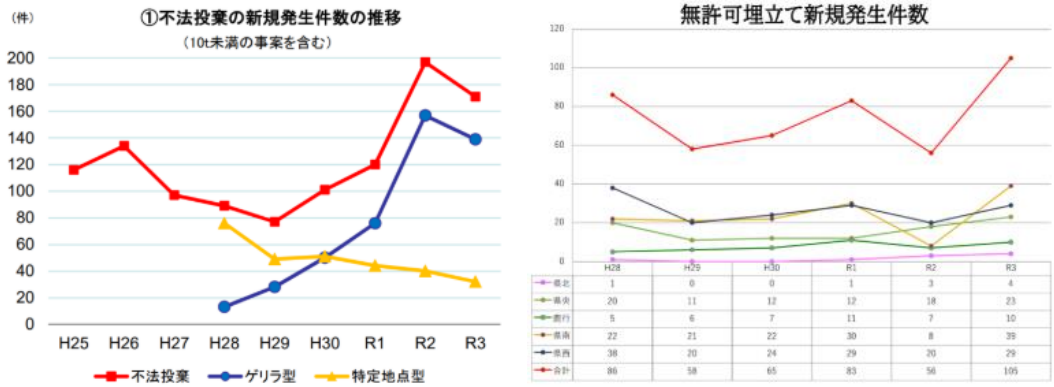
不法投棄や不適正残土など廃棄物の不適正処理事案は、近年漸増傾向にあり、県内各地域でゲリラ的に発生している。また、その手口は悪質・巧妙化し、組織的に仕組まれるなど、単一市町村での対応には限界があることや、不法投棄への対処には、初動が重要であることから、同協定によりリアルタイムな情報共有、広域的なネットワークを期待し同協定が締結された。実効的な抑止機能が期待される。

●実施内容

石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町の 4 市町において、2023 年 5 月 25 日（木）に廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定を締結した。産業廃棄物などの不法投棄や無許可の土砂の埋め立ては増加傾向にあり、県内各地域でゲリラ的に発生しているほか、その手口は悪質・巧妙化し、組織的に仕組まれるなど、単一市町村での対応には限界があった。

こうした不法行為への対処には、初動が重要となるため、本協定によりリアルタイムで情報共有を図り、広域的なネットワークを駆使することで、実効的な抑止機能が期待できる。

今回、4 市町はホットラインを設け、不法行為をやらせない地域、厳しく対応していく地域であることを周知し、自治体の枠を超えた監視体制を構築していくという。



▲(左)不法投棄の新規発生件数の推移、(右)無許可埋立新規発生件数
（出典：小美玉市 HP）

●その他

出典：石岡市 HP（https://www.city.ishioka.lg.jp/kurashi_tetsuzuki/gomi_recycle/gomi/page009874.html）
その他各市町 HP でも紹介あり

アプローチ：**ポイ捨てさせない**　不法投棄させない　散乱させない　ごみを拾う

取組内容：看板　**プランター**　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　清掃活動

No. 11	**まちかど花壇**
関係自治体等	神奈川県　横浜市鶴見区
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

不法投棄防止のために花壇を整備・維持管理する団体への花の苗や種の配布を実施。

●実施内容

神奈川県横浜市鶴見区では、対象の団体・場所において申請があった場合に、花の苗や種の配布を実施している。区の HP 上にて、申請や配布、活動報告書の提出などの情報について掲載しているほか、事業が活用された花壇についても紹介している。

«概要»

◇配付品目・配付時期

花の種・苗・土・肥料を、年２回（春と秋）に配付

◇対象団体・対象場所

以下の両方を満たすもの花壇が対象

[対象団体]

年間を通じた花壇の維持管理を責任を持って行うことができる、次のいずれかの団体

（１）地域グループ（自治会町内会・子供会・老人クラブ等）
（２）職域グループ（企業・商店街・施設等）
（３）学校グループ（幼稚園・小学校・中学校・高校等）
（４）その他有志のグループ

[対象場所]

（１）公共性・公開性が高いこと
（２）土地所有者に使用許可を得ていること

▲区民による植栽作業の様子

◇年間スケジュール（例年）

４月中旬	申請書（年間）及び花苗申込書（春分）の提出締切
４月下旬	区役所にて内容審査
５月上旬	審査結果通知
５月下旬～６月上旬	花苗配布（春分）
９月中旬	区役所から申請団体に花苗申込書（秋分）を送付
９月下旬	花苗申込書（秋分）の提出締切
10 月下旬～11 月上旬	花苗配布（秋分）
３月下旬	活動報告書の提出締切

▲事業が活用された花壇

●その他

出典:横浜市 HP
（https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kurashi/sumai_kurashi/recycle/machikadokadan.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

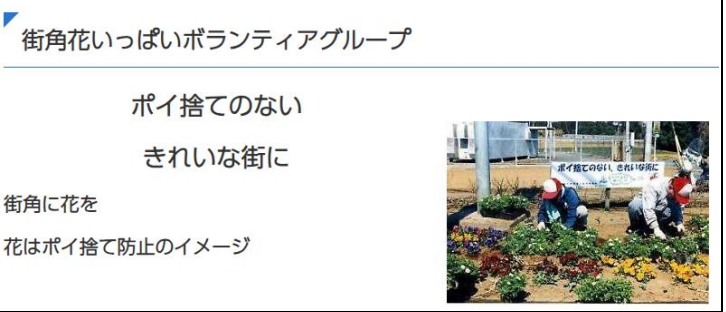
取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 12	**街角花いっぱいボランティアグループ**
関係自治体等	千葉県　富岡市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

千葉県富里市の「街角花いっぱいボランティアグループ」は、市内にある 7 ケ所の花壇やプランターに季節の花を植栽し、ごみのポイ捨て防止を呼びかけているボランティア団体である。

ポイ捨てのないきれいな街をスローガンに、夏はマリーゴールドやベゴニア、冬はパンジーやビオラを植栽し管理している。



●実施内容

千葉県富里市の「街角花いっぱいボランティアグループ」では、市内にある大銀杏公園のほか 7 ケ所の花壇やプランターに季節の花を植栽し、ごみのポイ捨て防止を呼びかけているボランティア団体である。

1998 年から取組を開催。現在の構成人数は 55 名となっている。毎年 11 月に開催しているリサイクルフェアにて、活動の紹介や花苗等の販売などを実施している。

事務局は富岡市役所環境課。

長年の活動をたたえて、2016 年には富里市市民活動感謝状、2018 年には千葉県環境功労者知事感謝状の表彰を受けている。また、2023 年には、地域の花壇・プランターへの植栽や維持管理、ごみのポイ捨て防止活動など、長年にわたり地域の環境美化に多大な貢献をしたことを受け、地域美化功労者の環境大臣賞を受賞している。

表彰
平成 30 年度千葉県環境功労者知事感謝状
街角花いっぱいボランティアグループが表彰
6 月 8 日、千葉県庁で平成 30 年度千葉県環境功労者知事感謝状表彰式が開催されました。
その席上で、市内で環境美化活動に取り組んでいる街角花いっぱいボランティアグループに感謝状が贈呈されました。
▶富里第一小学校前の花壇。その他にも、大銀杏公園など市内 7 か所の花壇を整備しています。

▲千葉県環境功労者知事感謝状の表彰

●その他

出典：千葉県 HP（https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/chiikizukuri/hiroba/hiroba102.html）

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／散乱させない／**ごみを拾う**

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／ごみ箱／**清掃活動**

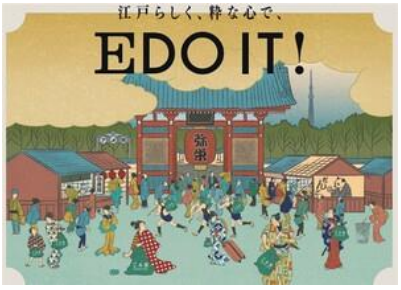
No. 13	**浅草地区における持続可能な観光地づくりについて**
関係自治体等	東京都　台東区
実施年度等	2024 年度

【 取組の概要 】

台東区では、浅草地区の地域住民や事業者と協働し、観光客の満足だけではなく、区民の生活に調和したまちづくりによる、持続可能な観光地の実現を目指している。

『EDO IT！』をスローガンに、江戸らしくストレートに「DO IT！（やろう）」という呼びかけの意味を込め、江戸の浅草地区を浮世絵タッチで表現したビジュアルとともに啓発活動を推進。

観光マナーを知ること・守ることを「良きおこない」として楽しんでいただけるような取り組みを進めている。



●実施内容

観光庁「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」の先駆モデル地域の自治体として、都内では唯一、台東区のみが実施する。事業内において、観光マナー啓発等の取り組みとして、観光客によるごみのポイ捨てへの対策、啓発などを実施している。混雑が顕著な浅草地区をモデルケースに実施し、その成果を踏まえ、今後は他地区への展開を検討していく想定。

◇持ち帰り用ごみ袋の配布

観光客によるごみのポイ捨てが課題となっていることから、「持ち帰り用のごみ袋」を配布することで、ポイ捨て行為に対する意識啓発を行う。 同時に、日本の観光マナーを正しく理解いただくために、「観光マナー啓発リーフレット」も配布する。対応言語は、日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語で、観光マナーについてイラスト付きでわかりやすく表記している。

▲持ち帰り用ごみ袋

◇ごみのポイ捨て禁止啓発

巡回スタッフが移動式ごみ箱をもって浅草地区を巡回しながら、観光客へのマナー啓発を行う。江戸をテーマとしたコスチュームを着て、観光客が一緒に記念撮影したくなるような楽しいマナー啓発を行う。年末年始の期間は巡回強化期間として稼働時間を延長する。

▲巡回スタッフコスチューム（予定）

◇ごみ拾いイベントの実施

楽しみながらゲーム感覚で参加できる人気の清掃イベント「清走中」※への参加を通じて、ごみのポイ捨て問題への意識を醸成しながら、浅草地区の美化を推進する。

※ごみ拾い中に SNS アプリに通知されるミッションに挑戦し、クリアに応じて付与されたポイントに基づいて景品獲得ができる参加費無料のイベント（「清走中」は株式会社 Gab の商標）。

◇ごみの組成調査・分析の実施

浅草地区内における道路等に投棄されたごみの現状を調査し、ごみの多い場所や量、組成を明確にすることで、今後の浅草地域のポイ捨てによるごみ対策の基礎資料となるよう分析を行う。

●その他

出典：台東区 HP（https://www.city.taito.lg.jp/kusei/sanka/release/press0611/26.html）

アプローチ：**ポイ捨てさせない**　不法投棄させない　散乱させない　ごみを拾う

取組内容：看板　プランター　**除草**　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　清掃活動

No. 14	**おねがい 用水や川に刈草を流さないで！**
関係自治体等	富山県
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

河川敷などで除草等が実施された際、刈草が川に流れてしまうと、浅瀬や川べりへ滞留してその上にごみが溜まる、水路の詰まりによる下流の水利用へ支障が出る、海岸に漂着して腐敗し悪臭を放つなど、数々の問題を生じることから、富山県ではリーフレットを作成し、草刈り時の刈草の処理について啓発している。

●実施内容

春から夏にかけて草刈を行う時期は、用水や川に刈草が流れてしまうことがあり、川では浅瀬や川べりに滞留してごみが溜まる等、川を汚す原因の一つになっている。

また、用水や川に流れた刈草は、水の流れを通じて富山湾に注ぎ込み、その一部が海岸に漂着する。海水に浸かった刈草は、腐敗し、悪臭を放つうえ、人力による回収作業が困難である。

これらのことから、富山県では、河川上流域の住民に対し、下流域や海岸の現状への理解と「用水や川にできるだけ刈草を流さない」への協力を呼び掛けている。

▲啓発用リーフレット

県では、啓発用リーフレットの作成のほか、用水や河川を刈草が流れる状況、および用水や川での草刈り（草が流れやすい刈り方、流れにくい刈り方）の動画を作成し、県ＨＰおよび Youtube 上で公開している。

▲啓発用動画（左）用水や河川を刈草が流れる状況、
（右）用水や川での草刈り（草が流れやすい刈り方、流れにくい刈り方）

●その他

出典：富山県 HP（https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00014338.html）
「用水や川に刈草を流さないで」リーフレット（https://www.pref.toyama.jp/documents/7571/ykarikusa.pdf）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 15	**河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）**
関係自治体等	岡山県
実施年度等	2023 年度～

【 取組の概要 】

岡山県では、海ごみ対策として、ごみが海に流れ出す前に河川等で回収することが有効であることから、2023 年度から新規事業として、個人や団体、企業等による河川等における清掃ボランティア活動が一層活発化するよう、市町村と連携し回収後の河川ごみ等を運搬、処分するとともに、回収を効率的に行うために県管理地内の草刈りを行うこととしている。

●実施内容

事業名：河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）

事業内容：

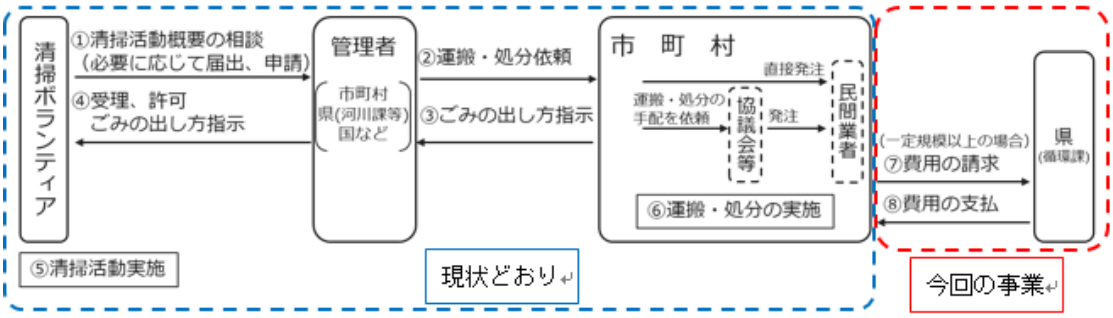
（１）河川ごみ等の運搬、処分費用の負担

2023 年度から、市町村等が河川等管理者や清掃ボランティアからの依頼に基づいて行う回収後の河川ごみ等の運搬、処分について、県管理エリアの内外にかかわらず、運搬等に要した経費を県から市町村等に全額支払う（一定規模以上※の清掃活動に限る。）。

※一定規模以上：45L ごみ袋 30 袋以上のごみ回収見込みであること

また、1 回あたりの回収量が 30 袋未満であっても、同じ団体が同一年度内に複数回の清掃ボランティア活動を行う場合、一連の活動で回収するごみの合計量が 30 袋以上となれば、すべての活動が対象とする。

従来のアダプト制度等とは異なり、この件について清掃ボランティアの方が申請などの事務手続きをする必要は無い。



▲支援フロー（一例）

（２）事前準備としての草刈り（県管理地）

（１）の対象規模以上の清掃活動が行われる場合、進入道路等部分的な草刈りを行う必要がある場合には、県が草刈りを実施する。

※ 時期によっては時間を要する場合があるので、清掃活動の 2 か月前までに要相談。

●その他

出典：岡山県 HP（https://www.pref.okayama.jp/page/858189.html）

アプローチ：**ポイ捨てさせない** | 不法投棄させない | 散乱させない | ごみを拾う

取組内容：看板 | プランター | 除草 | **ごみ袋** | 監視強化 | 害獣対策 | ごみ箱 | 清掃活動

No. 16	**観光客専用ごみ袋**
関係自治体等	北海道　羅臼町
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

世界自然遺産知床に代表される世界有数の自然に囲まれた町である羅臼町では、観光目的で町を訪れる方々のごみを受け入れるため、「観光客専用ごみ袋」を販売しており、町や知床羅臼ビジターセンターの HP などで啓発している。

●実施内容

羅臼町では観光などで訪れる方々のごみを受け入れるため「観光客専用ごみ袋」を販売している。

- ごみ袋は、羅臼町内専用。町外では使用不可
- ごみ袋は、「観光客専用ごみ袋取扱店・引取所」のステッカーが貼られた店舗等において販売
  同じ店舗にてごみの引き取りも実施
- 引き取りについては、営業時間内に店員（管理人）へ渡すこととしている
- 分別方法は「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」の２種類
- 袋の価格はそれぞれ１枚 100 円

▲観光客用ごみ袋啓発用ポスター

▲(上)観光客専用ごみ袋取扱（引取）店マップ
(下)「観光客専用ごみ袋取扱店・引取所」ステッカー

●その他

出典：羅臼町 HP（https://www.rausu-town.jp/pages/view/8）

アプローチ | ポイ捨てさせない | 不法投棄させない | **散乱させない** | ごみを拾う

取組内容 | 看板 | プランター | 除草 | ごみ袋 | 監視強化 | 害獣対策 | **ごみ箱** | 清掃活動

No. 17	**イベント用ごみ箱等の無料貸し出し**
関係自治体等	埼玉県　川口市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

川口市では、市内で開催されるイベントで出るごみの分別を促進するため、ごみ分別用ごみ箱及びのぼりを無料で貸し出している。

●実施内容

川口市では、市内で開催されるイベントで出るごみの分別を促進するため、ごみ分別用ごみ箱及びのぼりを無料で貸し出している。貸し出しにあたっては、事前予約の上、貸し出しや返却の際には必要書類を提出・提示する必要がある。

«貸し出しの概要»

◇貸し出すもの

折りたたみ式ごみ箱４種（一般ごみ・あきかん・あきびん・ペットボトル）
のぼり２本（注水式ポールスタンド含む）のセット（貸し出しは最大４セット）

◇貸し出しの手順

① 電話で予約
　貸出しを受けたい日の７日前までに、担当課（資源循環課）へ電話で申し込み
② 貸出を受ける日に、担当課にて利用申請書を提出し、ごみ箱等を受け取る。
　貸出しの期間は７日以内。貸出しの際は、イベントの内容がわかる書類（チラシや回覧等）と貸出しの対象者（ページ下部「貸出の対象者」の項目をご覧ください）の身分を証する書類（免許証等）の提示が必要。
③ 担当課へごみ箱などを返却、併せて利用報告書を提出（ごみ箱などは返却前に要清掃）

◇貸し出しの対象者

- 市内に存する町会・自治会・共同住宅の管理組合
- 市内で活動を行う団体
- 市内で事業活動を行う事業者

▲ごみ分別用ごみ箱及びのぼりの使用例

●その他

出典：川口市 HP（https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01100/040/3/1965.html）

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／**散乱させない**／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／**ごみ箱**／清掃活動

No. 18	**イベントごみ減量マニュアル**
関係自治体等	千葉県　松戸市
実施年度等	2016 年 11 月～現行

【 取組の概要 】

松戸市では、イベント開催時における環境配慮の取り組みについて、イベントごみの減量対策を中心に取り上げた「イベントごみ減量マニュアル」を作成し、公開している。

マニュアルの内容を例に、イベント主催者の創意工夫による環境にやさしいイベントの開催を呼び掛けている。

●実施内容

イベントの開催時には多くの人が集まり経済的にプラスに働くが、一方で多くのごみが発生し、環境に負荷がかかってしまうというマイナスの面もある。

イベント時に、ごみの減量化のための取り組みや環境への配慮を積極的に PR することで、様々なイベントをその参加者に対する啓発の機会にできることから、松戸市ではイベントごみの減量に関するマニュアルを作成し、イベント時における環境配慮の取り組み例を紹介している。なお、掲載事項を例に、イベント主催者の創意工夫による環境にやさしいイベントの開催を求めている。また、イベント時に発生するごみは事業系ごみであることから、主催者の責任において適正に処理される必要があることについても啓発している。

«マニュアルの掲載内容（概要）»

◇マニュアルの使い方

◇イベント時のごみを減らすためのステップ

① 運営者、スタッフによるごみを出さない工夫について
- 飲食物を提供するブースを出店する際には、食材の下ごしらえを事前に済ませておくことで会場でのごみ発生を抑制
- スタッフ等の食事に使い捨て容器ではない弁当箱を使用している仕出し弁当を選択

② 参加者への協力の呼びかけについて
- ごみの持ち帰りについての呼びかけの実施（事前、当日）
- マイバッグ持参の呼びかけ

③「分別ステーション」の設置
スタッフが常駐する「分別ステーション」について紹介。
参加者に分別の呼びかけたり分別方法の説明をすることができる。

④ リユース食器の活用
繰り返し使用できる容器の使用を促すと同時にリユース食器の導入を検討しているイベント主催者へ向けた情報を掲載。

◇イベントごみの処理について

事業系廃棄物であるイベントごみの適正処理の方法の紹介
（市の処理施設への自己搬入/一般廃棄物処理業者などへの有料委託）

▲松戸市　イベントごみ減量マニュアル（一部抜粋）

●その他

出典：松戸市 HP
（https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/gomi_shinyou/jigyousyokeigomi/ibentogomi.html）

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／**散乱させない**／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／害獣対策／**ごみ箱**／清掃活動

No. 19	**自販機横"新機能リサイクルボックス"の新たな形での導入促進に向けた実証事業**
関係自治体等	広島県　など
実施年度等	2024 年 11 月～12 月

【 取組の概要 】

広島県では、2021 度に全清飲等と連携して実施した実証実験にて、広島市内を中心に設置した新機能リサイクルボックスの効果を検証。散乱防止効果等を確認したことを受け、2024 年度には同様の効果を他地域（観光地や景観配慮区域等）に拡大していくことを目的に、観光地や景観配慮が必要な地域などにおいて、新機能リサイクルボックスを軸とした①散乱防止効果の面的拡大（導入促進）、②適切な分別回収の促進　に向けた実証実験を実施した。

●実施内容

事業は、「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」（瀬戸プラネット、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県によるネットワーク）の重点アクションの一環として実施。得られた検証結果は関係府県に共有するとともに、各地域での導入拡大に向けた検討材料とした。

▲新機能リサイクルボックス（RB）
(左)過年度実証実験、(右)2024 年度実証実験

«事業の概要»

- 2021 年度から、全清飲と広島県が都市部（広島市内など）を中心に実証実験してきた自販機横新機能リサイクルボックス（RB）の散乱防止効果等を、観光地や景観配慮区域等の他地域にも拡大させていくため、カッティングシール等で周囲の景観と調和したデザインに新たにアレンジ。
  統一的なデザインとして汎用性を持たせた上で、自販機横新機能 RB の導入を進めていく取組。
- 回収対象外のごみ（紙、プラスチックカップ等）は、周辺に設置されているごみ箱への誘導や持ち帰りを促すとともに、ペットボトルの 3 分別（ボトル、キャップ、ラベルの分別）や飲み残しの削減について、ナッジ等を活用したイラストや POP で掲出・可視化することで、適切な分別とペットボトルの 3 分別をどれほど促すことができるのか、その効果を検証。

▲新機能 RB に貼付した啓発シール

実施期間：2024 年 11 月 18 日～12 月 8 日（約 1 か月間）
① 既存リサイクルボックスでの事前測定（現状把握）　11 月 11 日～11 月 17 日
② デザイン付新機能リサイクルボックスの効果検証　　11 月 18 日～12 月 8 日
実施場所、定点観測数：計 9 台（宮島口周辺 6 カ所 7 台、鞆町周辺 3 カ所 3 台）

«実証試験結果（一部抜粋）»

- 9 箇所のうち、置き換え後に散乱状況が改善した箇所が 3 箇所であったのに対し、置き換え後に散乱が確認された箇所が 1 箇所あった。
- 散乱状況が改善された箇所は異物や飲み残しの混入率も改善されており、異物混入率の低減が散乱状況の改善に寄与する相関性を確認。

	宮島口1	宮島口2	宮島口3	宮島口4	宮島口5	宮島口6	鞆の浦1	鞆の浦2	鞆の浦3
散乱状況	○	○	－	－	△	－	－	－	○
異物混入率	－	○	△	△	－	△	－	－	○
飲み残し率	－	○	△	○	○	－	△	－	○
3分別率	－	－	－	－	－	○	－	－	－

▲(左)デザイン付き新機能 RB 置き換え後の状況変化
○：改善　△：悪化　―：現状維持

- 飲み残しの発生状況は、個数及び重量ともに減少⇒ 啓発資材の効果があったものと推察される。

●その他

出典：一般社団法人　全国清涼飲料連合会 HP（https://www.j-sda.or.jp/news/2024/11/28/post-1146/）

No. 20	**海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業**
関係自治体等	大阪府　など
実施年度等	2024 年 12 月～2025 年 1 月

【 取組の概要 】

「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」（瀬戸プラネット、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県によるネットワーク）の令和 6 年度重点アクションとして、環境省と大阪府が連携し、テイクアウトカップ専用回収ボックスの設置や啓発ポスターの掲示などの実証実験を実施した。

●実施内容

大阪湾を含む瀬戸内海は、閉鎖性海域で陸から流れ出たごみが溜まりやすく、地域全体で効果的な対策を進めていくため、2023 年 10 月、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県は「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」(瀬戸プラネット)を立ち上げた。同ネットワークにて、海洋プラスチックごみ削減についての課題共有、実態把握、モデルとなる取組などを連携して行い、きれいで豊かな瀬戸内海を守るために取り組みを進めており、令和 6 年度重点アクションとして、アジア太平洋トレードセンター（ATC）株式会社と連携のもと、以下の要領で実証実験を実施した。

«実証実験»

◇テイクアウトカップ専用回収ボックスの設置検証

テイクアウトカップ専用の回収ボックスを設置個所（店舗外）に設置し、どの程度回収できるのか調査を実施。

- 設置個所：ATC　ITM 棟　2 階　3 箇所
- 設置期間：2024 年 12 月 15 日～28 日

※設置期間のうち、2024 年 12 月 22 日～28 日については、「カフェ・ド・クリエ ATC 店」でのテイクアウトドリンク購入者に対し、先渡しの特典（ドーナツ）を渡すとともに回収への協力を呼びかけ、働きかけの効果検証を実施。

▲(左)テイクアウトカップ専用回収ボックス設置図、(右)テイクアウトカップ専用回収に関する啓発物

◇ペットボトルリサイクル「ボトル to ボトル」推進啓発ポスターの掲示

ペットボトルの水平リサイクルの取組である「ボトル to ボトル」推進のため、設置個所にあるペットボトルリサイクルボックスに、正しい捨て方を案内するポスターを掲示し、回収状況の調査を実施。

- 設置個所：ATC　ITM 棟・O's 棟　2 階　8 か所
- 設置期間：2024 年 12 月 22 日～2025 年 1 月 10 日
-

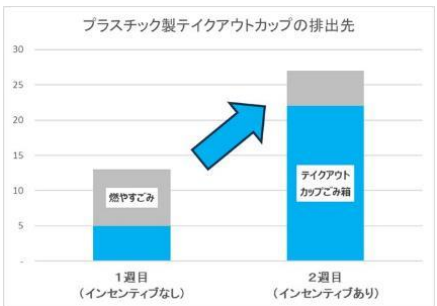
«実証試験結果（一部抜粋）»

■実証期間中の容器回収数

1 週目（働きかけ無し）に対し、2 週目（働きかけ有り）ではプラスチック製、紙製いずれのカップでも回収数が増加。

■テイクアウト飲料カップの排出先の変化（右図）

1 週目（インセンティブ無し）では、テイクアウト容器の「燃やすごみ箱」への投入が多く見受けられたが、2 週目（インセンティブ有り）では専用ごみ箱に捨てられることが促され回収数が増加。



▲テイクアウト飲料カップの排出先の変化

●その他

出典：大阪府 HP（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120070/setoplanet.html）

アプローチ：ポイ捨てさせない／不法投棄させない／**散乱させない**／ごみを拾う

取組内容：看板／プランター／除草／ごみ袋／監視強化／**害獣対策**／ごみ箱／清掃活動

No. 21	**カラス対策　ごみ容器・カラスネットなどの使用**
関係自治体等	東京都　杉並区
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

ごみ集積所などでは、カラスなどがごみを散乱させ、地域の公衆衛生や景観などに悪影響を及ぼす場合がある。杉並区では、ネット使用のほか、折り畳み式防鳥用ボックス、特殊な材料を使用した「黄色いごみ袋」などについて、配布や購入についての情報などを HP に掲載している。

●実施内容

杉並区では、カラスによる生ごみの散乱の防衛策として、以下の情報を HP 上に掲載している。

◇容器による排出

袋によって出された生ごみなどをカラスがねらい、ごみを散乱させる被害が発生しているため、区では、ごみ出しについて、ふた付ポリバケツによる容器出しを推奨している。

容器出しは以下のような効果が期待できる。

- ごみの散乱防止の他、悪臭の防止、美観の向上などにも効果有り
- 容器をごみ集積所へ出したり、引き取ったりなどに多少の手間はかかるが、経費も余りかからず、手軽に用意ができる
- ごみの散乱が改善されれば、ごみ集積所を管理する方の負担も軽減できる

▲カラスネット（小）の使用例

◇カラスネット

区では、カラス被害に困っているごみ集積所にカラスネットを配布。

- 申込にはごみ集積所に接する方、利用する方の合意が必要。
- 使用しているカラスネットが破損した場合は新しいものを配布。
- 配布カラスネットは小、中、大の３つのサイズ

▲折り畳み式防鳥用ボックス（小）

◇折り畳み式防鳥用ボックス

区では、カラス対策用の折り畳み式防鳥用ボックスの配布・交換を実施。

- 申込にはごみ集積所に接する方、利用する方の合意が必要
- 配布は、設置した際に車両や歩行者の通行や収集作業に支障が無い集積所が対象
- 配布ボックスは小、大の２つのサイズ

◇カラス対策「黄色いごみ袋」

区では、推奨する可燃ごみ収集袋として「黄色いごみ袋」を販売。

- 「黄色いごみ袋」は、特殊な材料を使用し、カラス対策に確かな効果があるごみ袋として、区民に親しまれている。
  ※ただの黄色い袋にはカラス対策効果は認められていない。
- 販売は 20、30、45 リットルの３つのサイズ
- 区役所内販売店のほか、区内一部のスーパーやドラッグストアにて販売

▲黄色いごみ袋

●その他

出典：杉並区 HP（https://www.city.suginami.tokyo.jp/s105/723.html）